

会務 H27 年度活動計画

1. 運営体制

学会の諸活動は、委員会活動を中心に進め、研究会活動、講演会等の企画についても進めていく。

2. 年次大会の開催

第 25 回日本 MRS 年次大会を 12 月 8 日（火）～10 日（木）に横浜にて開催する。5 件の国際シンポジウムを含め、26 のシンポジウムが開催予定である。演題登録は 5 月中旬に開始。

3. 内外の関連諸機関との連絡・協力

- 1) 先進材料に関する国内各学会・諸団体との連絡および協力を行う。
- 2) 横浜市との連携を維持し「横浜市次世代育成事業」を継続的に主催する。
- 3) IUMRS および IUMRS メンバーの各 MRS その他海外の先進材料に関する学会・諸団体に積極的に参加し、協力を行う。

4. 会誌等の刊行、広報

- 1) 原理事を委員長とする編集委員会及び出版事務局より、学術論文誌「Transactions of the Materials Research Society of Japan」を年 4 回刊行する。これまで印刷会社に委託していた ScholarOne の操作を含む印刷前段階の作業並びに発送を本事務局で担う。
- 2) 中川理事を委員長とするニュース編集委員会により、「日本 MRS ニュース」(Vol.27 No.1-No.4) を発行する。
- 3) 有沢理事を委員長とする広報委員会において、「日本 MRS ホームページ」(<http://www.mrs-j.org/>)を更新し、その運営・維持管理を中心として広報活動を行う。

5. 会員管理・会費請求

- 1) 次年度の会費請求を前年度中に実施し、併せて、会員証の発行を継続的に行う。
- 2) 会員管理システム（会員 My page の構築）の導入を実現する。
- 3) 法人会員数の増加を目標とし、学会パンフレット等を作成し学会の情宣活動を行う。

経営企画委員会 H27 年度活動計画

経営企画委員会
委員長 鈴木 淳史

1. 委員会

本委員会の委員長を会長が担い、各委員会委員長を中心として、学会活動の全般の諸問題、年次大会、国際会議、研究会、講演会等の企画と運営支援を行う。

2. 年次大会の開催

第 25 回日本 MRS 年次大会を 12 月 8 日（火）～10 日（木）に横浜市にて開催。5 件の国際シンポジウムを含む 26 のシンポジウムが開催予定。

3. 研究会

既存の研究会の活動支援を積極的に行うと共に、新規の研究会の発足につとめる。

4. 講演会

第 4 回講演会を下記の要領で実施予定。その他にも講演会を企画する。

■日程：2015 年 8～9 月

■会場：横浜市中区

■講演会名：単結晶に迫る/超える透明バルクセラミックスの開発の現状と課題

5. 国際会議

2017 年 8 月 31 日より IUMRS-ICAM2017 を京都大学にて開催予定。その運営を当該会議組織委員の下、日本 MRS 事務局が担う。

日本 MRS ニュース委員会 H27 年度活動計画

日本 MRS ニュース編集委員会
委員長 中川茂樹

1. 日本 MRS ニュース編集体制(編集委員会)

※ 編集委員構成や体制を変更予定

委員長: 中川茂樹(東工大)

委員: Manuel Brito(産総研)、伊藤 浩(東京高専)、岩田展幸(日大理工)、
小棹理子(ソニー湘北短期大学)、小林知洋(理研)、川又由雄(芝浦メカトロニクス(株))、
寺田教男(鹿児島大)、富田雅人(コーニング(株))、松下伸広(東工大)

顧問: 山本 寛(日本大学理工学部)、岸本直樹((独)物質・材料研究機構)

編集: 清水正秀(東京 CTB)

出版: 株式会社内田老鶴圃 / 印刷: 三美印刷株式会社 / 日本 MRS 事務局

2. 2015 年度 発行予定

4 回の発行を予定(800 部/回)

編集終了時点を TMSJ の発行(3 月、6 月、9 月、12 月の月末)と同期させる。

(現状: 2 月、5 月、8 月、11 月の月末)

編集委員会 H27 年度活動計画

編集委員会
委員長 伊熊 泰郎

- (1) 一番の課題は Trans. Mat. Res. Soc. Japan の知名度を高め、さらに質の良い論文を多く掲載することである。Review paper は引用されることが多く、知名度を高めるのに貢献しやすいが、Review paper 数が増えない。今後、IUMRS-ICA 2014 関係の論文を含めて良質の論文や Review Paper を増やす必要がある。
- (2) JST を通してスカラワンの利用価値があるかどうか検討をする。

広報・情報委員会 H27 年度活動計画

広報・情報委員会
委員長 有沢 俊一

1. 会員向けにマイページ機能の導入の検討を行い、ホームページのトップページのリニューアルを行う。
2. コンテンツ維持管理。J-stage とのスムーズな連携を図る。
3. 会員向け告知情報の充実。外部団体から広く認知され、協賛依頼等が届くよう図る。
4. メールマガジン等、会員への告知情報のシステム化。(TMSJ や日本 MRS ニュースの新号掲載、会議開催情報など)

IUMRS 対応委員会 H27 年度活動計画

IUMRS 対応委員会

森 利之

平成 27 年度の活動計画の概要は以下の通り。

- (1) IUMRS-ICAM 2015 (Jeju Island, Korea 25 October (Sunday) to 29 October (Thursday), 2015)
参加 (あわせて総会に出席)
- (2) Somiya Award 受賞者決定および表彰式開催 (於ける IUMRS-ICAM 2015)
- (3) IUMRS-ICAM 2017 (開催地: 京都)の開催概要紹介 (於: IUMRS-ICAM 2015)
- (4) E-MRS 会長 Dr. Thomas Lippert との意見交換会における結果をもとにした E-MRS/MRS-J ジョイントシンポジウム企画案の策定と、E-MRS 側への提案。合意後における合意文書の作製。
- (5) ICMAT-ICA2015 への参加予定

※IUMRS-ICAM 2017 開催について

日 程: 2017年8月開催予定
開催地: 京都市 京都大学
主 催: 一般社団法人 日本MRS
組織委員会: 未定

開催趣旨

先進材料研究は、材料の性質を向上させ、新しい現象や機能を応用に結びつけることを目的としています。現在人類が直面しているグローバルな環境問題を解決し、安全・安心な持続発展が可能な社会の実現に向けての材料科学の総合的なアプローチが強く求められています。このような新しい時代に求められる材料の研究開発にあたっては、従来の金属・有機・無機材料、あるいは構造・機能材料といった材質ないし用途別の、また化学工業・鉄工業・機械工業・食品工業・医療・運搬・通信といった業種・職種別の縦割りの概念や組織の枠を越えて、横断的あるいは学際的で、国際社会と連携したグローバルな視点で材料や素材の研究を実践する時代に入ったと思われます。

日本MRS (The Materials Research Society of Japan) は、材料に関する横断的・学際的な学術研究団体として 1989 年 3 月の発足以来、物質・材料に関するあらゆる問題を議論する場として、内外の関連諸機関と連携協力しつつ、幾多の学術シンポジウム、研究会を開催して参りました。日本MRS 設立の目的は金属、セラミックス、高分子など、歴史のある伝統的な材料研究学会をいわば横断的に結びつける我が国唯一の材料研究学会となることであり、会員数も1000人を上回る規模となっています。また、ヨーロッパ、中国、韓国、インド、シンガポールなど現在14の国または地域のMRSの国際連合であるIUMRS (International Union of Materials Research Societies) の創設メンバーの一つとして、重要な役割を果たしております。最近では、14のMRSの中でも、日本、中国、韓国、インド、シンガポール、台湾からなるアジアのMRSの活動が盛んになりつつあり、日本MRSは、1988年、1993年、2003年にIUMRS-ICAM、1997年にIUMRS-ICA、2012年にIUMRS-ICEMを日本(別表1参照)で主催し、2009年に青島、昨年に台北で開催されたIUMRS-ICAでは後援、協賛するなど世界のMRS、とりわけアジアの拠点として果たす役割がますます強くなっております。

この度、誘致活動をしておるIUMRS-ICAM2017は、50のシンポジウム、全参加者数を2,000人(外国から800名)程度を見込んでおります。材料研究の最先端で活躍する著名な材料科学者ならびに技術者が、世界中から参集し研究結果を披露し公開講義も行います。各々のシンポジウムは、基調講演、招待講演、口頭講演及びポスター講演から成り、材料科学技術、工学にとって今日的に重要な、広範なトピックスがハイライトされ、材料科学者に対して地球的課題解決に挑戦する機会を提供します。本国際会議で得られる成果は、我が国における材料研究分野のみならず、世界、とりわけ発展途上国における材

料の研究の発展に対して与える効果が大きいと考えられます。

別表1（各国MRS開催IUMRS関連会議）

開催年度	ICAM	ICEM	ICA	ICYRAM
1988年	池袋(日本)	日本		
1989年				
1990年		アメリカ		
1991年	E-MRS			
1992年		E-MRS		
1993年	池袋(日本)		揚子江船上(中国本土)	
1994年		台湾	台北(台湾)	
1995年	MRS-M		ソウル(韓国)	
1996年		アメリカ		
1997年	ストラスブール(フランス)		幕張(日本)	
1998年		チェジュ(韓国)	バンガロール(インド)	
1999年	北京(中国)			
2000年		ストラスブール(フランス)	香港	
2001年	カンクーン(メキシコ)			
2002年		西安(中国本土)		
2003年	横浜(日本)		シンガポール	
2004年		サンフランシスコ(アメリカ)	新竹(台湾)	
2005年	シンガポール			
2006年		ニース(フランス)	チェジュ(韓国)	
2007年	バンガロール(インド)			
2008年		シドニー(オーストラリア)	名古屋(日本)	
2009年	リオデジャネイロ(ブラジル)		シンガポール	
2010年		ソウル(韓国)	青島(中国本土)	
2011年	ニース(フランス)		台北(台湾)	
2012年		横浜(日本)	釜山(韓国)	シンガポール
2013年	青島(中国本土)		バンガロール(インド)	
2014年		台北(台湾)	福岡(日本)	中国
2015年	韓国		シンガポール	
2016年		シンガポール	中国	インド
2017年	京都(日本)			
2018年		韓国		オーストラリア

表彰委員会 H27 年度活動計画

表彰委員会
委員長 節原 裕一

奨励賞実施要綱

若手奨励賞について

MRS-J 奨励賞の選考要綱

1. 選考委員会 委員長＝節原裕一（大阪大学）
2. 選考委員の推薦依頼
 - 1) 各シンポジウムオーガナイザーへ当該分野の選考委員の推薦を依頼する。
 - 2) シンポジウム毎に 3 名以上の選考委員を推薦していただく。選考委員の数は、口頭講演およびポスター講演の数、専門性等を考慮し、各シンポジウムに委任する。ただし、60 分あたり、1 人の委員で評価できる講演数は 6 件（120 分で 12 件）程度が限度であることに留意する。個々の選考委員が、どの講演を評価するかの割り振りは、シンポジウム毎に決める選考委員主査に委任する。なお、選考委員および選考委員主査を主オーガナイザーならびに副オーガナイザーが兼ねることは妨げない。
 - 3) 各オーガナイザーは、あらかじめ各選考委員あてに評価フォーム（講演番号・名前入）、選考規程、細則、当該講演の要旨を送付する。
3. 講演会当日の選考スケジュール（口頭講演、ポスターを含む）
 - 1) 各シンポジウムは、事前に、選考委員主査と合議の上、各選考委員に講演番号と名前が記入済みの評価フォームを送付しておく。評価フォームはあらかじめ事務局より各オーガナイザーへファイル送付する。
 - 2) 各選考委員は規定ならびに細則に従って、シンポジウム毎の発表時間内に評価を行い、シンポジウム終了後、速やかにそのフォームを選考委員主査に報告する。
 - 3) 選考委員主査は、シンポジウム終了後、所定期間内に、インターネットの集計フォーム（以下、WEB システムと称する）により、以下の事項を選考委員会委員長に報告する。
選考委員主査が WEB システムにより選考委員会委員長に報告する事項：選考委員の氏名（3 名以上）、審査を行った講演の総数、各選考委員の評価結果、推薦順を付した受賞候補者リスト（必要に応じて選考理由を付すこと）。
 - 4) 選考委員会委員長は、上記 3) の報告結果をもとに、受賞者を最終的に判断する。
4. 選考結果の発表と表彰
 - 1) 受賞者の名前・所属を「日本MRSニュース」に公示する。
 - 2) 表彰方法：賞状等にタイトルと名前を記入の上、選考規定とともに本人に郵送する。

奨励賞規定

1. 本規定は、日本MRS（以下、本会）が若手研究者に対して行う表彰に関して定めたものである。
2. 本表彰は、本会が定期的開催する年次大会で優秀な発表（口頭発表あるいはポスター発表）をした若手研究者個人に「奨励賞」を授与し、その功績を称えることを目的とする。
3. 表彰対象は、本会が定期的開催する年次大会で口頭発表あるいはポスター発表した若手研究者であり、以下の全ての要件を満たす者とする。
 - (1) 論文の登録発表者、(2) 実際に発表した者、(3) 講演申込時に奨励賞への申込をした者
4. 若手研究者については、以下のように区分し、区分毎に表彰者を決定する。ただし、学生に関しては年齢を問わない。
 - (1) 学部学生、(2) 大学院修士課程（博士前期課程）の学生、(3) 大学院博士課程（博士後期課程）の学生、(4) 発表年の 12 月 31 日の時点で 40 歳未満の一般の研究者
5. 奨励賞選考委員会は、各シンポジウム毎に表彰候補者の数の 10% 程度を授賞候補者として選び、理事会に推薦する。
6. 理事会は、奨励賞選考委員会の結果を審議し、受賞者を決定する。
7. 受賞者には会長名の賞状を授与し、受賞者名を「日本MRSニュース」に公示する。
8. 本規定は、理事会の承認を経て改定することができる。
9. 本賞の英文名称は次の通りとし、受賞日は当該年次大会の最終日とする。
Award for Encouragement of Research in Materials Science;
The Materials Research Society of Japan

奨励賞選考細則

1. 奨励賞選考委員会

- 1) 奨励賞選考委員会は、本会の年次大会を構成する各シンポジウムのオーガナイザーから推薦された選考委員（各シンポジウム毎に3名以上）と、理事会から推薦された委員長ならびに副委員長各1名から構成される。
- 2) 選考委員の推薦方法は各シンポジウムオーガナイザーに委任する。ただし、選考委員は当該分野に見識のある研究者とする。選考委員会は、推薦リストをもとに選考委員を委嘱する。
- 3) 個々の選考委員が、どの講演を評価するかの割り振りは、シンポジウム毎に決める選考委員主査に委任する。
- 4) 選考委員は、奨励賞規定ならびに本細則に従って、当該シンポジウムで発表された表彰候補発表（口頭発表あるいはポスター発表）について評価を行い、シンポジウム終了後、速やかに評価結果を選考委員主査に報告する。
- 5) 選考委員主査は、シンポジウム終了後、所定期間内に、インターネットの集計フォーム（以下、WEBシステムと称する）により、下記の4. 選考手順に定められた所定の事項を選考委員会委員長に報告する。
- 6) 選考委員会委員長は評価結果をとりまとめ、理事会に報告する。

2. 受賞者の数

奨励賞選考委員会は、各シンポジウム毎に表彰候補者の数の10%程度を受賞者候補者として選び、理事会に推薦する。

3. 評価項目：以下の5つの項目について評価する

- 1) 理解度：内容を十分に理解しているか？ 質疑応答が適切になされているか？
- 2) 発表あるいは説明の態度：聴講者に内容を的確に説明しているか？
- 3) 発表あるいはポスターの構成・表現：見やすいか？よく整理されているか？
- 4) 研究内容：十分に考察されているか？
- 5) 総合：総合的に見て、優秀な発表であるか？

上記の項目について、

選考委員毎に4段階で絶対評価(4:非常に優れる、3:優れる、2:普通、1:努力を要する)する。

4. 選考手順

- 1) 各シンポジウム毎に選考委員の中から選考委員主査を選出する。
- 2) 専門性に配慮し、1つの表彰対象論文に対し、選考委員（3名以上）を選定する。
- 3) 選考委員が共著の論文は、当該委員は評価できない。その場合、専門性を考慮し、やむをえず代替の選考委員が充当できない場合は、他2名の選考委員の評価平均点を評価点として加算する。
- 4) 3名以上の委員の評定の合計点等をもとに、各シンポジウム毎に受賞候補者の推薦順位を決定し、主査はWEBシステムを用いて選考委員会委員長に報告する。その際、所定の事項【選考委員の氏名（3名以上）、審査を行った講演の総数、各選考委員の評価結果、推薦順を付した受賞候補者リスト（必要に応じて選考理由を付すこと）】を、WEBシステムを用いて選考委員会委員長に報告する。

5. 理事会での審議

理事会は選考委員会に審議を委任することができる。

6. 受賞者の掲示、表彰などについては原則として以下の通りとする。

- 1) 受賞者を、年次大会終了後概ね1ヶ月以内に決定し、本人に通知すると同時に「日本MRSニュース」などに公示する。
- 2) 賞の授与は郵送により行う。ただし、この項は本会の学術講演会の運営日程に従い、予告なく変更することができる。

7. 本細則は理事会の承認を経て改定することができる。